



遠 13
469
2

13
469
2



門 遠 13
 號 469
 卷 2

花園 奇譚 夢見草二

福東子玉雄 戲編

長嶋町五丁目
 大野屋惣八



第三回

戀^{こひ}し^この寐^ねて^や忘^{わす}ると^まま^との^あげ^又名^な跡^{あと}
 ち^あま^の夜^のの^やあ^まも^えあ^り候^あま^しと^まふ
 の^まん^なみ^なり^がち^ある^物の^うち^独り^び
 つ^ゆ一^案の^ころ^ばう^りあ^らあ^げま^して^や
 つ^まを^てら^る病^の床^に母^を入^あま^りま^つ

めとたよりそひて乳お娘さん此のまゝの
冷^ヒまずせのを出しておあがりおそれませ
早くは令^{せん}使^しおそごのせ父母の世に
お母さまあまされませとらふは病まらり
までもあ^ぐらうくとあ^ぐらうからあ^ぐれませ
日^ひ傍^ばにおあつせおそれませ
よおあ^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
あ^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
お^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ

あ^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
中^{ちゆう}てお^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
あ^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
く^くらうとらうのせおあ^ぐらうませ
よ^よらうとらうのせおあ^ぐらうませ
あ^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
お^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ
お^ぐらうとらうのせおあ^ぐらうませ

ありおふも母の乳母が甚く愛あることを感ず
絢のおひひとうちあけていそんとせしうが生
娘のさすうがらよふらひうもて終ては
うらむくぞかへりうらうがらおふら
おひうらうらうのうらうらうとて乳お
あふも愛ぞうしやふかお好でござん
あふれすすぞらごらうりませんうらうら
おふもあふれまし虎の巻といふまを奉
ミニ

よおまごりとの乳母さふお八重さんとや
中うら幸治うさんとふ可あうらうら
をおえそあふれましそそれが病の本
とありおふらうらひあふれくお出あふれ
と何とら中お女中うその幸さんとふあ
とてあふれましおやえさんよおあらせ
ますうあふれこのあふれあふれ
お八重さんのあふれうらうのあふれあふれ

うごきつりまーいんうとぶをまきまんとま
がとーまのきよんひんくまのを通せー
みぞくもじまあらんはとまひんひんお
ふひんそれとまもつうず舟まひんま
しやよまあんで作者がこーらんまよあ
てなまきく幸さんといふあひんはもあらせ
らまるとひんひんひんひんひんひん
あるとまひんひんひんひんひんひん

乳イエらひんひんひんひんひんひん
ひんひんひんひんひんひんひんひんひん
らひんひんひんひんひんひんひんひんひん
おひんひんひんひんひんひんひんひんひん
もあまひんひんひんひんひんひんひんひん
たひんひんひんひんひんひんひんひんひん
とひんひんひんひんひんひんひんひんひん
ひんひんひんひんひんひんひんひんひん

あまのこゝろいぢういふ事とらたは来よて時勝しやうかつ
あこらあめひーとまひさしーがしー
くんざーのぬけーおちしーがあんのさー
たぐひよえうらすかちとくふであよ
とあくゆーとまてをれうーくしよかく
りてもそのおすぐーこのおけらまよら
まよそひてつらのまもこすまはら
ここのあうよとまづうーとまはら

こーとあよんことまもあうりなまら
へこくようらちたうゝあま乳純じゆんあま
ーあまをーかあうおことまら
ていあまいさくづらうのよらーま
あうでこぞうのますがあらのちまらうら
らますせぬらあうよもそのあうまのあ
まらとまらうよまら出ちらまらあま
せ中すんぬんあうおちまらまら

さいぜんくわいあそびなまわしむいん
才せとるをさるゆと一はきよはまよひなり
のあそび糸むすぶあゆ一とりのあわたり

第四回

あそびあしーらろのうらあしのおしよ
まもこくありまよるあまのうがやまひ
のおしりあらかのこひ人のあつうとそ

ひやうさいふあせんと乳母の目ぞ
よる山の鏡世言いど傍どりのそのころあ
どく言んおんあゆとそまごひ人あり
りりあの人と一のころ十七八あるま
ま急かまかやら年叙がおしうらなを
つげざるもあぶびうと一宗朝まきあ
まきしむとまよひくうあまをまあのうと
うの深山木あつと一あ人のあそ

ませぬとゆふかちつてくぐらちまのり
えまぶるるるどらら〜くた〜
日おまぶるるるどらら〜くた〜
まゆりとりひらかんざ〜とおまぶるま
ぐぶる〜かめんと〜らちま
お〜らり 乳おまらりうちつちあや
こまぶるるるどらら〜くた〜
あまぶるるるどらら〜くた〜

のまぶるるるどらら〜くた〜
まぶるるるどらら〜くた〜
まぶるるるどらら〜くた〜
すもかりるるどらら〜くた〜
子よつ可うきくおひますおまぶるるるどらら〜くた〜
のまぶるるるどらら〜くた〜
とまぶるるるどらら〜くた〜
このらもあまぶるるどらら〜くた〜

おのぢや〜とくしきく〜がまいたりのおまへん
らま〜しをづ〜とあたと〜く〜と〜と
もあ〜く〜あ〜う〜あ〜と〜う〜ち〜い〜わ〜り〜田タか
おゆ〜うぶの内よ〜つ〜あ〜ゆ〜ゆ〜が〜ま〜ぶ〜入〜は〜ま〜く
てもた〜が〜ひ〜は〜あ〜う〜ぬ〜初ハツメ意の〜う〜あ〜る〜あ〜め
とちま〜び〜やヤ他タ者も〜ま〜し〜と〜あ〜る〜ことお
たのぢ〜す〜を〜り〜も〜母の〜こ〜入ウケ〜く〜お〜ま〜子
く〜とよ〜ぶ〜こ〜入〜ま〜る〜ことお〜ま〜る〜し〜お〜ま〜あ

がらをとくおやうをむおごらるきて乳お娘
さんごうあそびされま〜と〜く〜を〜ま〜て
き〜く〜ら〜う〜づ〜き毎乳母う中ま〜く〜ら〜ま
〜い〜と〜い〜ま〜ら〜う〜い〜と〜い〜と〜あ〜の〜し〜よ
母母ちようごうのあめども見ゆ〜う毎アイ
乳乳ま〜が〜ゆ〜く〜ま〜る〜し〜を〜お〜あ〜ぐ〜り〜あ〜ま〜ま〜し〜

第五回

こまきまうしたときかけ物子さるうら
既^{既に}さうしてらまうつらどあつと
をわくたのむらありまうことそ
でまきよりこんがおまてハあうら
んちがひびうとやますとその人
たりくからてらとれとこのす
うらそんあう 聖^{せい}者^{じや}の先生^{せんせい}はたの
かそまうかとやますとらへ^{ニキ}聖^{せい}者^{じや}ど

のえとやうでらうらうらうら
たうであうあうなうまんとむか
まうす^{はま}やう^らん^らあう^らあう^ら
なまうらあせまうらうらあけ
まんとらうまうとその人^らや
あうこのうらあう^をら^ら麻^ま之^の律^{りつ}の中
の人^ららうまうとやますうら
のうやますとらうらあう^らら^ら

と書しよりの乳母のしりしり日毎よてん
あしはらがあり日毎ちよてん
あてづくとあつらひらうらよて
あ一人の名のきりてあづのら
のゆうつとづよてうさんつと
ふてあうたむるよ中よ入経文一まきと
ぞやおあひらひ書よてあせうと
のあつらひづらぞあひはら
三十八

てあつらひとあつらひ
あつらひ人なうあよてあつらひ
りりとまき経文をよくまき書
あつらひとあつらひとあつらひ
よてうとつてあつらひとあつらひ
あつらひとあつらひとあつらひ
あつらひとあつらひとあつらひ
あつらひとあつらひとあつらひ
あつらひとあつらひとあつらひ

さしはくありてうをどききしとよぶ
とさしつゝぬんくもまよひなりや
しるべしとよむとあらん

